

令和元年度決算に係る

定期監査資料

令和2年8月

消防防災航空センター

目 次

1 前年度指摘事項等に対する措置等	1 頁
(1) 指摘事項	
(2) 監査意見	
2 前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項に対する処理状況	1
3 職員の定員、現員調べ	1
4 役付職員の調べ	1
5 主な事業に関する調べ	2
6 収入証紙取扱額調べ	5
7 現金の取扱状況	5
8 財産に関する調べ	5
(1) 公有財産	
(2) 金券類の保有状況	
9 財産の貸付及び使用許可調べ	5
(1) 土地及び建物	
(2) 物品	
10 借受不動産明細調べ	6
11 職員駐車場の管理状況調べ	6
(1) 管理状況	
(2) 減免の考え方	
(3) 使用料の見直し	
12 寄附物件の受納状況調べ	6
13 備品の処分状況調べ	6
14 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ	6
(1) 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ	
(2) 物品の照合	
○ 意見、要望等	6

1 前年度指摘事項等に対する措置等

- (1) 指摘事項 該当なし
- (2) 監査意見 該当なし

2 前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項（口頭指摘を含む。）に対する処理状況 該当なし

3 職員の定員、現員調べ

(令和2年4月1日現在)

種別 区分	事務職員		技術職員		現業職員		計		備考
	当該 年度	31.4.1 現在	当該 年度	31.4.1 現在	当該 年度	31.4.1 現在	当該 年度	31.4.1 現在	
定 員	1	1	0	0			1	1	
現 員	() 1	() 1	(8) 8	(8) 8	()	()	(8) 9	(8) 9	技術吏員は航空隊員で県内消防局と併任
過不足(△)	0	0	8	8			8	8	
臨時職員									
非常勤職員	2	2					2	2	一般事務1名 消防防災連絡員1名

4 役付職員の調べ

(令和2年8月1日現在)

職名	氏名	在職期間	備考
所長	国本 忠史	年 0 月 04	

5 主な事業に関する調べ

(単位 : 千円)

事業名	決算額	財源内訳		
		国庫支出金	その他	一般財源
消防防災ヘリコプター運営費	246,979	—	129	246,850
鳥取元気プロジェクト	—			
元気づくり総合戦略	—			

(概要)

ア 目的及び事業の実施状況

(ア) 目的

消防防災ヘリコプターが持つ非代替性・機動力を活用し、迅速で効果的な救急・救助・防災活動を行うことにより、県民の安全・安心を確保する。

(イ) 事業の実施状況

①消防防災ヘリコプター「だいせん」(機種: AW139) の運航

<運航体制等>

・運航日：365日(整備点検等で運航できない日を除く。)

　消防局等からの要請に対し、迅速に対応ができるよう勤務している。

※本県ヘリが運航不能の場合は、相互応援協定により島根県ヘリ等の出動を要請する。

・運航時間：原則、8:30～17:15(日の出から日没)

・運航管理責任者：消防防災航空センター所長

・消防防災航空隊：各消防局から派遣(隊長1名、副隊長2名、隊員5名)

・運航委託会社：朝日航洋株式会社(操縦士2名、整備士3名、運航管理者1名)

②ヘリコプター運用調整会議の設置(平成25年度～)

東日本大震災での活動経験を教訓とし、本県における大規模災害の発生に備え、全国から集結するヘリコプターの的確な運航調整ができるよう、ヘリを保有する関係機関等(自衛隊、海上保安庁、県警、消防他)相互の「顔の見える関係」の構築と活動計画、安全運航計画の作成及びその円滑な運用を図るため、ヘリコプター運用調整会議を設置している。令和元年は、関係機関の日程調整が整わず開催できなかった。

③救急救命士の資格を有する隊員の配備(平成24年度～)

現在、3名(東部、中部及び西部消防局)の救急救命士の派遣を受けており、初動での救急処理の充実を行うことで救命率の向上に努める。

④医師が防災ヘリに同乗する運用の取組(平成16年度～)

県立中央病院、県立厚生病院及び鳥取市立病院の基幹病院と協定を締結し、消防防災ヘリに医師が同乗することができる体制を整備している。また、県西部地域においては、消防防災ヘリに医師が搭乗した運用ができるよう、鳥取大学附属病院と協定を締結している。さらに、関西広域連合共同運航のドクターヘリ(兵庫県豊岡病院)とは従来の確認書という形で連携していたが、平成30年度に連携活動及び救急活動に関する協定を締結し、医師同乗等を含む、より連携した活動を行うことができる体制を構築した。

⑤中国5県等による防災ヘリ運航不能時相互応援体制の推進

島根県と相互応援協定を締結し、本県ヘリが法定検査等で運航不能となった時には島根県防災ヘリの出動を要請できるようにしている。また、両県ヘリが同時に運航不能となることもあるため、中国5県で運航不能時の相互応援協定を締結しており、中国管内での応援体制を整備している。また、平成31年4月1日に兵庫県とも同様の応援協定を締結し、相互の応援体制の充実を図った。

※相互応援等(緊急消防援助隊(航空小隊)の活動含む)の件数(令和元年)

応援件数…島根県6件

受援件数…島根県3件、岡山県2件、広島県1件、兵庫県3件

イ 令和元年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

① 他県防災との合同訓練の実施

ヘリコプターが耐空検査で自隊訓練ができない期間中、同じ機種（AW139）で活動を行っている広島県防災航空隊へ12月に赴き、技量の維持及び向上を図るための合同訓練を実施した。

② 近畿ブロック緊急消防援助隊合同訓練に参加

令和元年10月26日・27日に三重県で開催された近畿ブロック緊急消防援助隊合同訓練に、航空隊員3名が航空指揮支援隊として参加。航空指揮支援本部を設置し、ヘリベース指揮者の支援及び航空小隊の活動管理を行った。緊急消防援助隊の技術向上及び連携活動能力の向上に繋がった。

③ ドクターヘリとの活動連携の強化

公立豊岡病院が運航するドクターヘリ及び鳥取大学医学附属病院が運航する鳥取県ドクターヘリ（事業主体は関西広域連合）との更なる連携強化に向けて、合同訓練又は定期的な協議などを実施した。

④ 飛行場外離着陸場の基準見直し

ヘリのダウンウォッシュ（ヘリコプターのローター（回転翼）は、飛ぶために下方へ風を作り出しており、この吹き下ろされる風のこと。）による飛び石等による駐車車両等の損傷事故を防ぐため、毎年場外離着陸場の見直し調査を行い、周辺状況を勘案した分類基準（ランク付け）とし、安全な離着陸ができる場外離着陸場を選定し消防局に通知してその周知を図った。

（場外離着陸場199箇所（令和2年2月4日現在））

ウ 成果及び効果

消防防災ヘリの令和元年運航実績（H31.1.1～R1.12.31）

区分	本年件数	前年件数	主な活動内容
緊急運航	災害応急対策	0	0
	火災防御	7	5月11日 鳥取市河原町の林野火災で空中消火を実施 5月19日 北栄町の林野火災で空中消火を実施
	救急	38	2月27日 県立中央病院から鳥大医学部付属病院までの転院搬送を実施 4月 4日 鳥取空港から豊岡病院までの転院搬送を実施 5月 7日 野島病院から松江市立病院までの転院搬送を実施
	救助	45	3月18日 大山で滑落した負傷者の吊上げ救助を実施 5月12日 三徳山で道に迷った3名の吊上げ救助を実施 5月23日 久松山で転倒した負傷者の頂上での吊上げ救助を実施 8月14日 鳥取砂丘で熱中症の負傷者を吊上げ県立中央病院へ搬送 10月 9日 鳥取市青谷町「長尾鼻沖合」で流された負傷者の吊上げ救助を実施 10月27日 鳥取市河原町「靈石山」でハンググライダー同士の接触事故。転倒した負傷者の吊上げ救助を実施
	応援協定による運航	9	6月 3日 島根県安来市内で発生した林野火災に情報収集を実施 8月 7日 島根県浜田市弥栄町で転倒した負傷者の吊上げ救助を実施

				8月10日 島根県太田市三瓶町「三瓶山」で負傷者の吊上げ救助を実施
	緊急運航 計	99	105	
通常運航	災害予防対策	0	0	
	消防防災訓練	24	12	9月26日・27日 三重県防災航空隊合同訓練 6月 9日 豊岡病院フライトドクターHOIST降下養成訓練 県内3消防本部との合同訓練（年間計20回）
	自隊訓練	123	108	救助、救急及び消火活動訓練、ヘリテレ電送訓練、計器飛行訓練他
	一般行政	7	4	海岸・河川・道路・森林の現況調査他
	その他	16	17	機体整備点検後のテスト飛行など
	通常運航 計	170	141	
	合 計	269	246	

ヘリコプターの機動性・高速性を活かした活動により、特に次の点で大きな成果を出している。

- ・山岳や水難での救助や高速道での大規模事故などの迅速な救助により早期医療介入を実施。
- ・消防車が進入できない林野火災などでは上空からの消火活動により延焼を防止・消火。
- ・地震等における大規模災害時に上空からの広範囲の情報収集を実施。

二 課 題

① 2人操縦体制等の実施

平成30年8月に発生した群馬防災ヘリの事故等を受け、消防庁告示により平成元年9月に2人操縦体制等を明記した「消防防災ヘリコプターの運航に関する基準」が制定された。これを受け本県では、令和2年4月1日からの運航委託にかかる契約書の仕様書に令和4年4月1日からの2人操縦体制実施を明記し契約を締結した。

この2人操縦体制実施には、委託先の操縦士の確保・育成が前提であり、新たな委託先の、この操縦士の確保等を注視して必要がある。

② 安全運航

平成27年12月に更新した新機体（AW139）は、従来の機体（ベル412EP）と比べて、性能やエンジン出力が大幅に向上了が、反面ダウンウォッシュが強くなっている、引き続き、安全面を最優先に考えて運航（活動）を行っていく必要がある。

③ 大規模災害時のヘリ活動と航空運用調整

関係機関と図上訓練等を行うなどして、現行の計画の実効性を検証するとともに、新たな課題の拾出しを行い、現行の計画の見直しを進め、安全で効果的な活動が可能となるよう、引き続き協議・検討していく必要がある。

6 収入証紙取扱額調べ

有 無

7 現金の取扱状況

ア 現金取扱状況	該当なし
イ つり銭の状況	該当なし

8 財産に関する調べ

(1) 公有財産

ア 土 地	該当なし
イ 建 物	該当なし
ウ 山 林	該当なし
エ 動 産 (船舶、浮標、浮桟橋、浮ドック、航空機)	該当なし
オ 物 権	該当なし
カ 無体財産権 (特許権、著作権、商標権、実用新案権等)	該当なし
キ 有価証券	該当なし

(2) 金券類の保有状況

ア 金券の保有状況
有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>

イ タクシーチケットの保有状況 該当なし

9 財産の貸付け及び使用許可調べ

(1) 土地及び建物 該当なし
(2) 物 品 該当なし

10 借受不動産明細調べ

(令和元年12月31日現在)

区分	種別	借受(使用)目的	所在地	数量又 (は面積)	契約の状況		借受先 氏 名	備 考	
					契約書 の有無	借受期間	単価	本年度の借料	
建物	共同住宅	派遣隊員宿舎	鳥取市湖山町 東1丁目64 7-5	3室 (各25.77 平米)	有	H29.3.2 ~H30.3.19 (~R2.3.19)	141,000	1,692,000	鳥取市湖山町北1丁 目427-1 株式会社カル・オフ イス
	合計							1,692,000	

11 職員駐車場の管理状況調べ 該当なし

12 寄附物件の受納状況調べ 該当なし

13 備品の処分状況調べ 該当なし

14 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ
(1) 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ
有 無 (2) 物品の照合
 有 無

- 意見、要望等
(1) 業務に関する意見・要望等
特になし

- (2) 監査委員事務局に対する要望等
特になし